

第3回実行委員会アジェンダ・資料編

1. 挨拶 《市原》19:00～

2. 第2回目までの会議などのご報告 19:05～

《経緯》

- ・2018年4月頃から、さくら会議（月1回程度開催）の中で広域連携の仕組み作りの必要性が議論され、そのような仕組み作りの手段のひとつとして、静岡図上訓練（のような取り組みが）の神奈川県版を計画・実施することが提案され、さくら会議の中で、何度も話し合いを持った
- ・2019年6月6日に、本実行委員会の設立に関する説明会を実施した。
- ・2019年7月4日に、第1回事項委員会を実施した。
- ・2019年7月25日に、第2回目実行委員会を実施した。
- ・2019年8月29日に、第3回目の実行委員会となった。（本日）

名称の決定について

【広域連携かながわ図上訓練実行委員会】とします。

3. 具体的な訓練の実施案について

(いつ) 開催時期は、《第1案》2020年4月17・18日（金土）

《第2案》2020年4月24・25日（金土）

開催時間は、10:00～17:00（途中数回の休憩や昼食などをとります。）

第1日目終了後、名刺交換や懇親会を行います。（有料）

(どこで) 会場として以下の案があります（カッコ内は収容人数）。（一部交渉中です）

- ・神奈川県県民サポートセンター大ホール（200名程度）
- ・神奈川県立武道館武道場など（400～600人）
- ・関東学院大学（横浜市金沢区・横浜市中区）
- ・神奈川大学（横浜市神奈川区）

(誰が)

広域連携かながわ図上訓練実行委員会（我々が、実行委員メンバーが）メンバーと、ご協力いただけるオブザーバーなどの方々、県行政や県社協、他協力団体や企業、学校、グループ、個人の方々などと共に、多くの協力者を募り、開催準備から始めます。

(何を)

神奈川県内の、災害NPO団体、行政、社協、企業、学校等に所属する人、および、県外の災害NPO団体等を対象とした、室内型の災害想定模擬訓練、および、交流。静岡図上訓練のような災害想定に基づくワークショップと顔の見える関係作りを実現する訓練を実施する。

※この部分を本日のワークで話していただきたい。①

参考1（静岡図上訓練）：

http://www.chabashira.co.jp/~evolnt/_src/25214/14zujyouhoukoku.pdf

参考2（想定災害）を基に。
大正型関東地震（神奈川県の大正型関東地震が最も大きな地震は大正型関東地震）

（具体的には）

被害想定からの対応を検討する「シミュレーション訓練」「ワークショップ型訓練」などの良いところを参考に、「DIGやHUGなどのゲームでもない」、被害などや受援、支援など地域や職場、学校などを想定しながら、地域への理解を深め、予防や人材発掘、ネットワーク創りなど考える、まさにつながるの体制作りなどを図る訓練とする、シミュレーションも取り入れ、ワークショップも取り入れ、DIGやHUGの良いところも取り入れ、受援力の向上なども行い、県内外の多くの方々を集め、室内型、図上、頭上、コミュニティ型訓練を行う。（静岡方式参考）

この訓練内容も、今実行委員会の分科会などで話し合い、詳細を決めていく。

※この部分を本日のワークで話していただきたい。②

（どのようにして）

神奈川県らしさを前面に打ち出し、神奈川県の防災力と減災力に寄与することを念頭に置き、具体的な意見交換を行い、（本日8月29日）開催に向けて話し合います。また、県内外の人を対象とした県域全体会を本図上訓練の実施前に開催することを望む声もあるため実施を検討します。

（神奈川県総合防災訓練ビックレスキューの会議などを想定し、全体会を考え、呼びかけなども行い、12月～1月をめどに、全体会議を行います。）

※この部分を本日のワークで話していただきたい。③

（開催規模）

開催日数は、2日間程度、参加人数規模は、200名程度を目標に（第1回目なので）開催を考える。

（何のために）

神奈川県の防災力と受援力の向上を、目指すため。

当該被害想定を考慮すれば発災後1か月～3か月の間における災害ボランティア（広域でのボランティア&活動者および諸団体を含む）の活動は必要であり、事前に県内外の関係者間の顔の見える関係の構築と被害想定に基づいた想定訓練を行っておくことで被害の軽減に寄与し、ボランティア活動のスムーズな連携がとれると考えられるため。

※この部分を本日のワークで話していただきたい。④

（補足説明）

- ・神奈川県内では災害想定を元に全県域対象の訓練などを開催したことがない。
- ・県の災害想定を見ると、（以下県の災害想定の内P一部抜粋）

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/j8g/cnt/f480078/p1039800.html>

大正型関東地震では死者31,550人、1ヶ月後の避難者数2,793,550人などの想定が公開されている。これだけの規模の被災想定が公開（公表）されているにも関わらず、神奈川県内では県全体での規模の訓練が実施されていない。

4. 今後の会議に関する説明《市原》

以下①②の機能を持つ、複数の会議（話し合いの場）が必要と考えます。

①当日含む準備する方々の会議（実働部隊）（企画内容含む）

実際に訓練の企画、運営、準備、渉外や事務、会計などを行う、実行部隊、準備会議
上記は、コアメンバー（事務局機能を有する）と考え、常に中心的な役割を担う。
もちろん、ご協力を頂ける方々の参加は拒まない。（分科会的な会議）

②全県域が対象（県外協力者含む）の訓練です、多くの方々に、説明や意見交換の場 が必要と考える為、全体（より多くの方々を招く）会を、本開催前に数回程度開催 したほうが、説明や趣旨を理解していただくためにも、必要と考えます。

（多くの方々が参加する会議、全体会、オブザーバー参加含む、訓練参加してくれそう
な方々含む） 12月～1月ごろでの会議を目指したい。

上記2案の会、会議には、多くの方々の参加を期待し、多くの方々の協力の元、
行う事が望ましいと考えています。

※この部分を本日のワークで話していただきたい。⑤

5. テーブルワーク《会議参加者全員が意見を言える場を設ける事》

以上の説明内容を元に、会議参加者の間で意見交換

《意見交換の内容》

（具体的には）①～⑤の部分、(どのようにして)の部分に対しワークを行っていただき、
議題に沿って、意見交換をお願いします。

5-1 学生部門 についても、上記同様、学生が考える訓練内容などを具体的に
意見交換していただきたい。

6. 発表《グループにて》 20:10～20:30

- ・記録の方（訓練等の分科会で参考にします、記録をお願いします。）
- ・発表の方

7. 全体での意見交換 20:30～

8. Web サイトや SNS (FB) などについて

- ・既存の Jimdo のサイトから新設したサイトに引っ越します。Jimdo のサイトは、閉鎖します。

FB ページ

- ・「広域連携かながわ」の FB ページを新設
- ・広報活動はこの FB ページと Web サイトで行う（両者は相互リンクで接続する）

FB グループを、【広域連携かながわ図上訓練実行委員会】

- ・既存の FB グループを実行委員（活動協力者）の FB グループとして新規登録を実施します。

9. 次回会議開催日について

次回の会議開催日について以下の案があります。

- ① 全体的な会 9月10月(案) メールでご案内+HPやFBなどを見て欲しい。
(実務者で提案できる内容を発表、意見交換などを希望する。)
(訓練開催に向けた、実務的な会議、会場選択から広報、内容企画など)
- ② 9月18・19・20日(水木金) 候補日
- ③ 10月9・10日(水木) 候補日

10. 挨拶(20:50終了)

以上

《以下は参考資料です。》

広域連携かながわ図上訓練実行委員会(以下の部門へのお手伝いをお願いします。)

2020訓練実行委員長 名誉委員長 未定 実行委員長 未定

広域連携かながわ図上訓練実行委員会

代表 沢田 健介 副代表 市原 信行 副代表 未定

総務 尾上 河野
(連絡・会場・物品管理・日程調整などをお願いします。)

広報 前田
(web運営・印刷物・郵便物・SNSなどの担当をお願いします。)

会計 田代
(財務・会計などをお願いします。)

渉外 市原
(協力者・メディアなどの対応をお願いします。)

会議 尾崎 高松
(会議の準備・開催・案内・進行・議事録作成などをお願いします。)

学生担当 越智 高橋 高松
(学生の会議・学生部門全般をお願いします。)

事務局 市原 藤久保
(上記すべてに関わる部分をお願いします。)

他の方、申し訳ありませんが、どこかの部門へのお手伝いをお願いいたします。

《内閣府の三者連携推進など》

平時から顔の見える関係構築、防災意識向上などの為に、行政や社会福祉協議会、NPOや諸団体、企業などが連携をすることを推進しています。

企業の地域貢献(CSRなど)なども、求められています。

神奈川県では12月に内閣府主催の三者連携などの研修会を企画しています、別途後日ご案内などもあると思います。

《図上訓練とは、どのような訓練を考えているか》

静岡県では、『静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練』を毎年行い、4～500名規模の室内型災害想定図上訓練を開催（2018年度で、14回目を迎えます。）

参考：<http://www.chabashira.co.jp/~evolnt/blog/pg3742.html>

報告書などもあります。

東京都では、『アクションプラン推進会議』として、室内型、災害時のボランティア支援者活動連携、想定図上訓練などを5か年計画で、1期、2期と開催（2018年度で、6年程度開催）、毎年3～400人規模で開催しています、都内6ブロックなどに分けて検討会や支援者連携会議なども開催。

参考：<https://tokyo-saigaivc.jimdo.com/>

（以下HPなどから抜粋）

第2期アクションプランでは、下記3つの柱をもとに平時の行政や民間団体の関係づくり、また仕組みづくりを進めていきます。

1 多様な団体との連携の場づくり

災害発生時に、東京都災害ボランティアセンターに求められる役割・機能を果たしていくためには、日頃から異なる考え方や文化を持つ様々な団体同士が相互に知り合い、信頼関係を作り、いざというときに相談し合える、様々なことを提案しあえる関係（連携・協働の関係）を作っておくことが重要です。

<具体的なアクションプラン>

- ①都内の様々な団体同士が知り合える場づくり
- ②情報の収集と発信（メルマガの配信／メディアとの連携）
- ③人材育成（団体相互の理解促進の信頼関係づくり／災害時に発生する課題に対しての勉強会）

2 災害発生後のしくみづくり

災害発生時に、東京都災害ボランティアセンターに求められる役割・機能を果たしていくためには、情報収集や発信の仕組みを事前に構築しておくことが重要です。東京都災害ボランティアセンターと東京都災害対策本部との情報共有の仕組みの構築も求められます。また、左記の役割・機能についてもさらにブラッシュアップしていくことが求められます。

<具体的なアクションプラン>

- ①東京都災害ボランティアセンターの役割・機能の検討ならびに対応計画の策定
- ②情報収集のツールの検討・活用・訓練の実施
- ③物資・資機材／助成に関する企業や関係団体との調整

3 推進会議そのものの検討

災害発生時に、東京都災害ボランティアセンターに求められる役割・機能を果たしていくためには、アクションプラン推進会議と、東京都災害ボランティアセンターとが連動する形でなければなりません（現状では連動する体制になっていません）。この組織体制のあり方について検討し、具体的な取組みを行うことが求められます。

<具体的なアクションプラン>

- ①東京における民間団体ネットワーク組織体制のあり方の検討
- ②東京都・TVAC・市民活動団体等の定期的な意見交換の場の設置
- ③全国団体・他県団体との関係の強化

上記のような、訓練や会議、話し合いの場なども、神奈川県内での開催がありません。

今回、初めて神奈川県県民サポート課など共に（協力事業として行っています。）、神奈川県県社会福祉協議会や県共同募金会、関東学院大学、神奈川大学、東海大学、防災関係諸団体、企業、その他諸団体などと共に計画を進めているところです。（現在準備中）

神奈川県での災害想定を行い、地震などの災害発災時、また数時間経過、数日経過後などの想定をし、職場、学校、家庭などの場で、何が困るか、何が必要か、どのような支援ができるか、どのような受援ができるか、など多くの想定を（実際と思い）行い、近隣の方々、地域、企業、諸団体と、顔の見える関係構築や想定訓練を行い、それぞれの困りごとや、悩みごとなども、少しずつ話し合い相談し、実際の災害時に被害などを最小限にする策や、いざ！の時に困らないようにする、関係や被害時プランなどを共に構築できる関係創りを行っていただきたい。

全県域対象、被害（地震などを想定）想定をし、会社で、通勤途中、外出先で、学校で、家庭で、どのように対応する？優先順位は何から？連絡方法は？支援への要請は？受援の方法は？など様々な（2日間程度の訓練を考えています。）事柄を検討する場、話し合いができる場などを提供したいと考えています。

スタッフ：30名程度は必要

会議：実行委員会　8月＝3回目　9月＝4回目　10月＝5回目など

以上
『広域連携かながわ』図上訓練実行委員会
代表 沢田 健介　副代表 市原 信行